



MUJI X UR

団地リノベーションプロジェクト



団地に住まうということは、光、風、緑と仲良くなるということかもしれません。大げさなものではないけれど、四季の移ろいを感じる暮らしがあります。

団地が理想の家になる

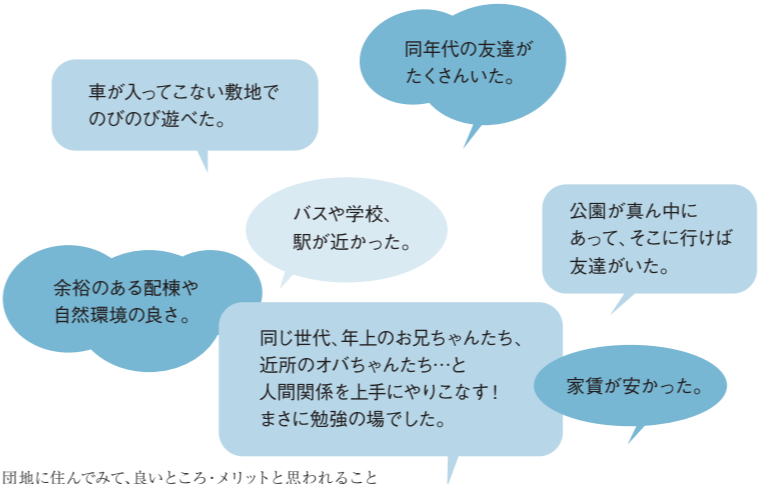
あらためて見ると、団地はとても贅沢な敷地条件で建てられていることに気がつきます。建物の間隔が広く、光や風がよく通り、たくさんの緑がある。現在ではなかなか実現が難しい、ゆとりのある住戸も多い。もしかすると団地は、いま都市に住むための場所として最も賢い選択肢かもしれません。MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトは、そんな団地の良さを見直し、優れた部分を上手に生かしながら、そこに無印良品が積み重ねてきた知恵や工夫をそっと掛け合わせて、これまでにない賃貸住宅をつくる活動です。賃貸に愛着を持って長く丁寧に住みつないでいくことが、これからの日本の暮らしのスタンダードになってほしいと思います。

団地のことをどう思いますか

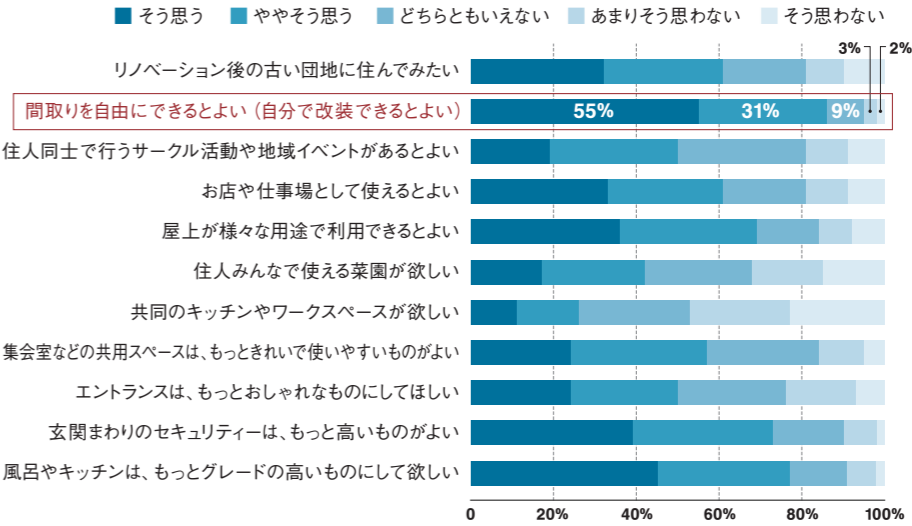
無印良品で団地についてのアンケートを実施したところ、たくさんの人たちが団地に共感を持っていることがわかりました。時代とともにキッチンなどの設備は古くなっているので適切なリノベーションが必要ですが、実際に住んだ経験のあるなしに関わらず、合わせて6割を超える人が団地に住んでみたいと答えています。特に注目されるのは、「自分で改装できるとよい」と考える人がとても多いこと。賃貸でも生活スタイルに合わせて変えられるような、住む人を主役にする住宅が増えたら、私たちの暮らしの選択肢はずっと広がりそうです。



自分で構想して自分の家をつくる。余分なものをなくした室内なら、その可能性も無限に広がります。



団地に住んでみて、良いところ・メリットと思われること
(集計数:2,247人のうち1,097人がコメント)



団地についての好感度：無印良品の家 住まいのかたちアンケート「団地について」より



コンパクトでシンプルなキッチン本体と、同材・同デザインのテーブルとスツールをセットでそろえ、その配置を変えることで、調理、配膳、食事が自由に楽しめます。

生かす、変える、自由にできる

リノベーションとは住まいの間取り、設備等を改修して、目的や時代に合った新しい価値を与えること。

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトは、

すべてを壊すのではなく、使えるものは残すことを基本にしています。

古いものを見直し上手に生かすことは、

今を大切に未来へつなげていくことと同じです。

コストも抑えられ、多くの方に住んでいただけるようになります。

変える部分も、工事で付け加えるのと暮らしに合わせられるようにするのは

リノベーションの方法が根本的に違ってきます。

良いものは大切に受け継ぎ、工夫をこらして住む人の自由度の高い住まいを考えました。

新築にはない温かみのある味わいも大切にしています。

生かすところ

全体の構造体、柱、鴨居など大きな空間をつくる部分はできるだけそのまま残し、新しい住まいづくりに上手に利用します。



柱・鴨居 年月を積み重ねた木材だけが生み出せる味わい。その素材感や風合いが、白く統一された部屋のアクセントになります。



押入 ふすまを外して大きな収納に。収納ボックスを並べる、洋服をかける、椅子を置いて机にするなど使い方は自由自在です。



把手 シンプルで使いやすい機能とかたちを持った把手は、団地に元々備わっていたもの。良いものは大切に受け継ぎ、生かします。

変えるところ

団地の魅力を引きたてる新しい素材の床や組み合わせられるキッチンなど、楽しいアイデアをいろいろ取り入れました。



段ボールふすま 重さから開放されたふすまです。ひとりでも簡単に持ち運びすることができます。



小天井 シェルフを組み合わせることで、間仕切りとして使うことができる小天井。地震などの際の家具の転倒防止効果もあります。



組合せキッチン 壁付けだったキッチンを対面式に。空間が開放的になり、料理をしながら家族との会話も楽しめます。



麻畳 やわらかな触れ心地と丈夫さを兼ね備えた麻畳。家具を置いて洋室のように使うこともできます。



ラワン合板フローリング ラワンのラフな素材感を生かしたフローリング。30×180cmの大判サイズで、クリア塗装で仕上げました。



白樺合板フローリング 白樺と杉を使用した合板フローリング。30×180cmの大判サイズで、木目を生かして仕上げました。



半透明ふすま 圧迫感のない半透明のふすま。空間は仕切り、光はやわらかく通します。



木製引戸 余分な装飾を排し、木肌をそのまま生かしました。素のままの色味が周囲にやわらかく調和します。



持出しキッチン 壁付け専用のカウンターキッチン。脚がないので、キッチン下が自由に使えます。

自由にできるところ

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトは、借りた人が自分の好みやスタイルで住まいを自由にアレンジできるのが特徴です。



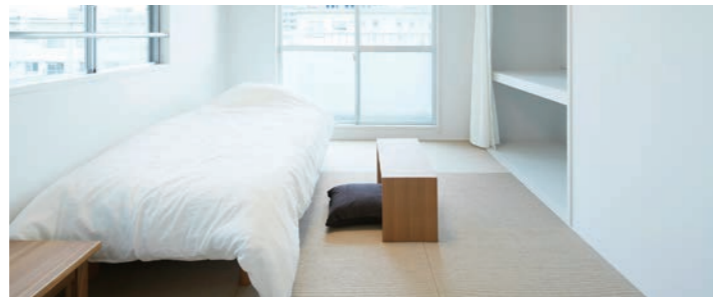
仕切りは好みで
小天井に無印良品のユニットシェルフを組み合わせると、実用を兼ねた間仕切りになります。倒れる心配もなく、両面から使える便利さも。元の鴨居の部分にレールを付けてカーテンで仕切り、一室空間をつくることもできます。



組合せキッチン
キッチンカウンターと同じ高さ・同素材のテーブルを備え付けています。一列に並べたり、向かい合わせに置いたり、使い方によって自由にレイアウトできます。



和洋どちらでも
しっかりした表面の麻畳はソファやベッドなど家具を置くこともできるので、洋室の生活でも違和感がありません。もちろん、直に座っても気持ちの良い質感です。

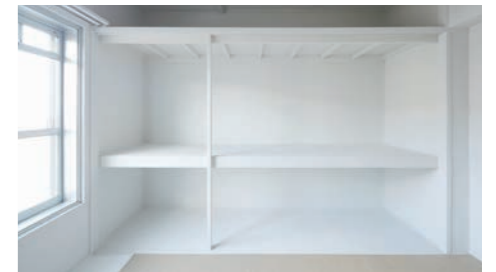


収納は自分流
使う人の生活に合わせて収納を設えれば、キッチンや水まわりに無駄なスペースが生まれません。自分の暮らしを思い描きながら自由に組み合わせてみてください。



MUJI×URという箱

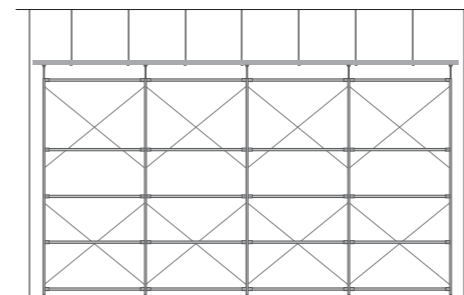
空っぽのお弁当箱に、好きな具を盛りつける様子をイメージしてみてください。
MUJI×URもそれと同じ。何もない空間に例えば無印良品の収納家具を置いていくことで、家族の成長や暮らし方の変化に合わせて、間取りを自在に変えることができます。
加えて、収納家具の大きさと小天井、扉、キッチン、押入などの内装の寸法が連携しているため、それらがどう組み合わせられても空間におのずと調和が生まれます。
また家具だけでなく、引き出しや収納ボックス、生活雑貨などもそこに協調するので、部屋全体が知らず知らずのうちに気持ち良く整理されていきます。
内装から家具、生活雑貨に至るまで。MUJI×URの住まいでは、そのひとつひとつが背後でそっと結び付き合い、目に見えない快適さを支えています。



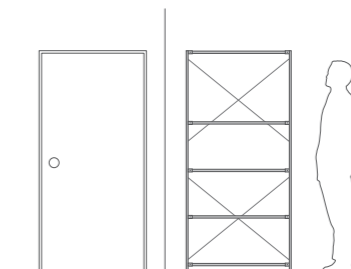
内装を取り払った空っぽの空間。
この箱から、自分の暮らしに合った理想の住まいづくりが始まります。

高さの調和

備え付けの小天井や扉、キッチンとユニットシェルフの高さが連携。家具をどの場所にも移動させても、空間に自然と調和します。



小天井 まるで備え付けの間仕切りのように、小天井と床との間にシェルフが整然と収まります。



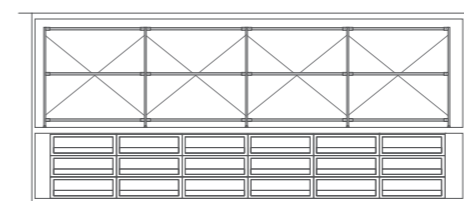
扉 扉の上枠とシェルフの高さがほぼ同じ。インテリアに統一感が生まれ、部屋がすっきりとした印象になります。



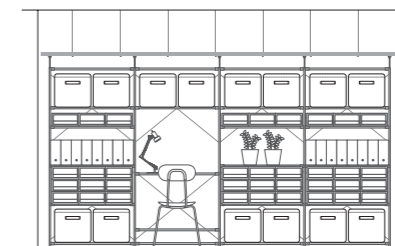
キッチンカウンター
キッチン台の高さにシェルフが連携しています。

構造体への収まり

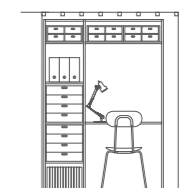
押入だったスペースや壁に沿って、無駄なく収まるシェルフや収納ボックス。好みに合わせてシェルフの組み合わせは自在に変更できます。



横長の押入 元々は布団など大きなものの以外はしまいにくかった押入。シェルフを並べることで、洋服や生活雑貨など小さなものも収納しやすくなります。



壁一面 部屋の壁一面を収納として活用。シェルフの幅や高さをカスタマイズして、一部を学習デスクとして使うことも。



小さな押入 ささやかでも専用の空間が欲しい人は多いはず。シェルフを活用すれば押入が小さな書斎になります。

風通しの良い一室空間

MUJI×UR Plan68 | Re+068
床面積：69.1m²

玄関土間とつながるリビングがある暮らし。

東西を分断していた部屋の間仕切りを撤去し、
広々としたリビングダイニングとしました。
西側の居室とリビングの間にあった押入は、壁を撤去し、
新たに設置したふすまの開閉によって、
全体を風通りの良い一室空間とすることもできます。



MUJI×UR Plan58 | Re+058
床面積：53.79m²

直線で繋がるLDKと寝室。

unnecessary 押入を撤去することで分断されていた空間をつなげ、
リビング、ダイニングキッチンから寝室まで光と風が通り抜ける広い空間にしました。
撤去した押入の木枠を残すことで、後からの間取り変更も自在です。



キッチンの正面の壁を利用して台所用品を吊すことで、
収納するとともにディスプレイとしても機能します。



ダイニングキッチンとリビングの間の押入を撤去し、
空間を繋げるとともに、ワークスペースを確保しました。

MUJI×UR Plan66 | Re+066
床面積：48.61m²

ふすまで可変する多目的スペース。

玄関横にあった狭い個室は、壁を撤去し、ふすまを設置することによって
部屋の広さを自在に変更できる多目的スペースとしました。
ふすまの開閉や位置を変えることで、空間がテレワークスペースや寝室に変化します。



ふすまの位置を玄関側、窓側と変えることで目的に合わせた空間をつくれます。
ふすまを全て開放すると玄関と一体となった広いアトリエ空間になります。



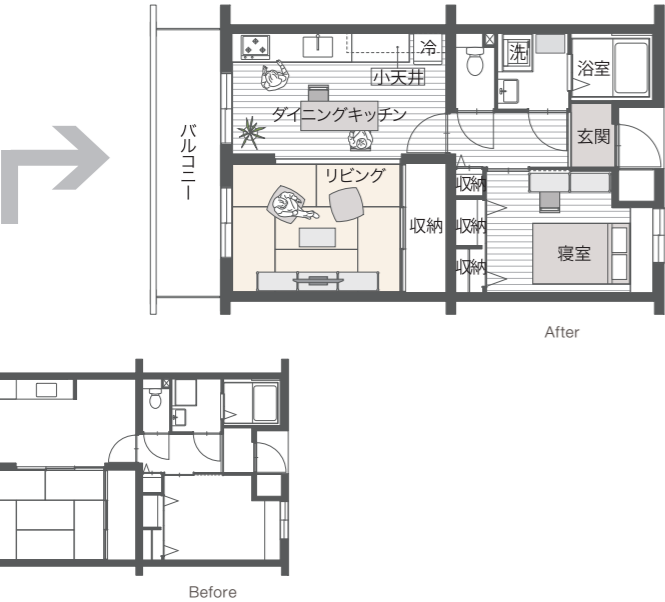
多目的スペースはふすまを窓側に移動させることで、
狭小でも明るく風通しの良い、作業空間になります。

キッチン暮らしの中心に

MUJI×UR Plan29 | Re+029
床面積：47.62㎡

2トーン空間とロングカウンターキッチン。

既存の仕上げの上から2色の塗装を行いました。
空間の広がりを意識し、グレーと白を使って、
下から上へ明るくなるよう配色しています。
3.7mのロングカウンターキッチンが空間のアクセントに。



MUJI×UR Plan24 | Re+024

持出しキッチンのある広いLDK。

2LDKのファミリータイプの間取りは、寝室のふすまを解放することで、
南北に風が通り抜ける広い1LDKの間取りに変化します。
ロングカウンターのキッチンを設置しても広々と開放的です。



2LDKの間取りからふすまを取り払うことで、風通しの良い広い空間となります。
キッチン周りも広々としていて、使い勝手の良い間取りです。



壁紙を丁寧に剥がしてコンクリートの素地を現しにし、
ふすまの木枠もそのまま生かしています。

MUJI×UR Plan43 | Re+043

ダイニングを見渡せる2列型キッチン。

キッチンと寝室だった空間をつなげて、
大きな2列型キッチンと明るいダイニングをつくりました。
部屋の中央には、落ち着きのあるワークスペースも設けています。



ダイニングとキッチン。キッチンは、既存の吊り戸棚を残して収納を充実させました。
壁のタイルも、既存のものを生かしてアクセントにしています。



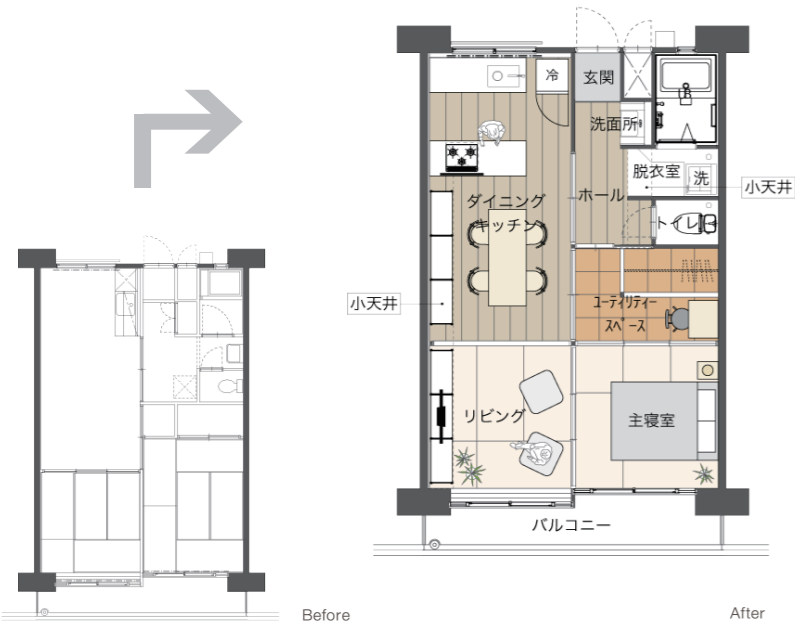
窓のないダイニングだった空間は、落ち着きのあるワークスペースにしました。

プラスもうひとつの空間

MUJI×UR Plan69 | Re+069
床面積：46.20m²

クローゼットにも寝室にもなる押入空間。

寝室に新たにふすまを設置し、多用途に使える半個室を作りました。
ウォークインクローゼットとして洋服を収納したり、
ふすまを閉じれば半個室の落ち着いたワークスペースや、
ベッドを置いて寝室にすることもできます。



MUJI×UR Plan52 | Re+052

パントリーを持つ広々としたLDK。

元々キッチンであった空間を利用してつくったパントリーは、
充実した収納量を確保できます。また、持出しキッチンをLDKの中心に置くことで、
生活動線がスムーズにつながる、広々とした空間になりました。



狭すぎず、余分に広くもなく、充実した量を収納できるパントリー。
そのすぐ隣に持出しキッチンを設け、料理の動線をスムーズにしています。



家の隅に押し込まれて設置されがちなキッチンを、暮らしのへそとなるLDKの中心に設置。
キッチンは料理の場所だけでなく、住まい手が憩う場所になります。

MUJI×UR Plan56 | Re+056

パントリーにもクローゼットにもなる空間。

元々は大型家具の搬入口だった収納を利用して、
パントリーにもクローゼットにもなる空間を設けました。
主にキッチン側からはパントリーとして、玄関側からはクローゼットとして使用できます。



廊下側から見た、パントリーにもクローゼットにもなる小部屋。
機能的でありながら、キッチン(内)と玄関(外)をつなぐトンネルのような場所です。



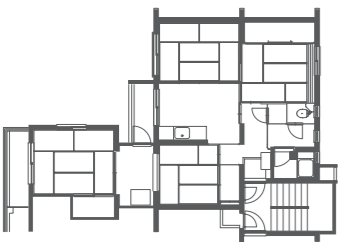
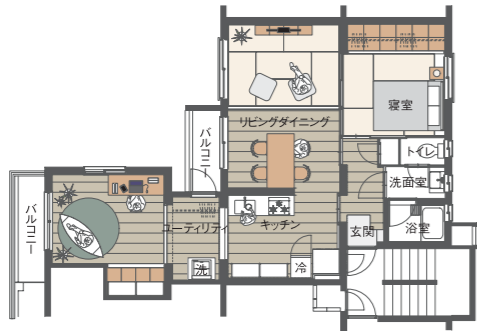
リビングの壁面にふすま専用の収納を設置し、家族構成やライフスタイルに合わせて
間取りを1LDK、2LDKと変化させることができます。

ワークスペースがある暮らし

MUJI×UR Plan67 | Re+067
床面積：63.88㎡

離れをワークスペースに。

南面に増築されていた一室を、生活音から少し距離をおいた、
日当たりのよいテレワークスペースとしました。
半屋外の空間として、仕事だけでなく屋内キャンプなどにも活用できます。



MUJI×UR Plan61 | Re+061

中棚ワークデスクがある暮らし。

コンパクトな空間を最大限活用できるように、押入のふすまを外して、
中棚をそのままワークデスクとしました。さらにハンガーパイプを設置することで、
ワードローブとしても利用できるようなフレキシブルな押入になります。



通常の中棚の上から化粧板を貼って仕立てているので、
執筆やPCの利用にも問題なく使用できます。

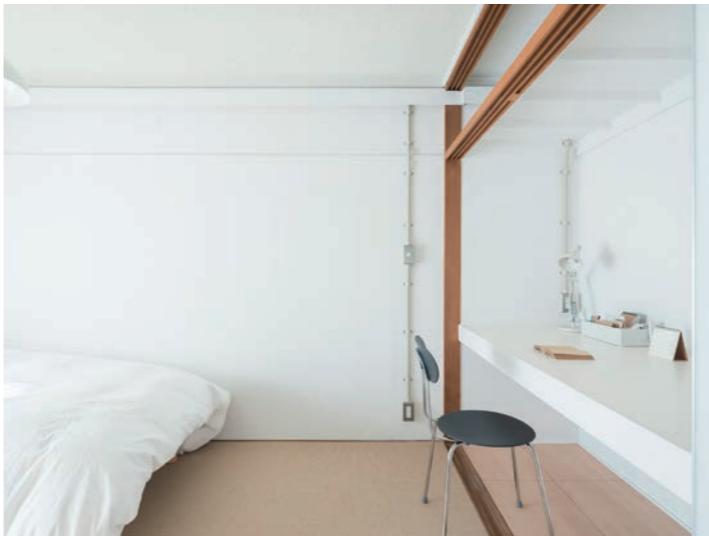


玄関脇の収納を撤去し、残した木枠にベンチを取付けました。
靴を履く時などの腰かけとして使用できます。

MUJI×UR Plan65 | Re+065

広い寝室でテレワーク。

北面にLDK、明るい南面に2寝室を設けた間取りとしました。
昼間、利用することの少ない寝室をワークスペースとして活用することで、
生活音が気になるLDKから少し離れた場所でテレワークができます。



静かで日当たりの良い寝室はワークスペースに最適です。
押入をデスクとして活用しています。



キッチンの側には既存の木軸壁を利用した壁面本棚があり、
お気に入りの本をディスプレイすることができます。

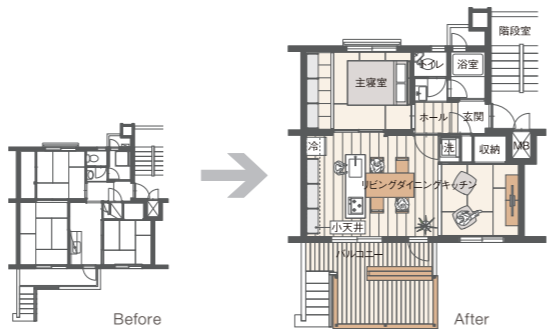
ウッドデッキ



MUJI×UR Plan36 | Re+036
床面積：42.31m²

ウッドデッキで外とつながる暮らし。

団地1階の特徴を生かし、LDKとつながるバルコニー部分を拡張してウッドデッキ空間としました。窓を開けるとLDKからウッドデッキにかけて外とゆるやかにつながります。コンクリートの手すり部分は天板のせてカウンターとし、外で食事を楽しめるようにしました。



完全に壁から離れたアイランドキッチンも1階だからこその特徴です。床下を自由に使えるので、排水位置を気にせずキッチンを設置できました。



LDKとつながるバルコニー部分を拡張し、ウッドデッキ空間としました。ハンモックでのんびり過ごしたり、グリーンを置いてガーデニングを楽しんだりできます。

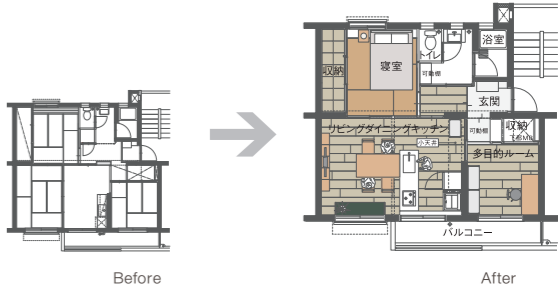
土間とつながる



MUJI×UR Plan47 | Re+047
床面積：47.99m²

土間とつながる多目的ルーム。

玄関土間から直接上がれる多目的のルームをつくりました。納戸としても、趣味の部屋や寝室としても使えます。玄関の横には、可動棚のある収納スペースも設けました。



土間と多目的ルームはゆるやかにつながっています。土間との間をふすまで仕切れば、個室としても利用できます。



キッチンの裏手からすぐ多目的ルームに行けるため、家事室としても、DKの延長としても使えます。

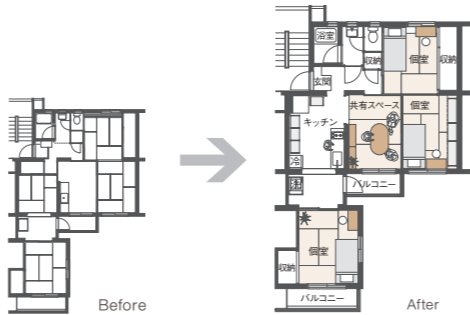
シェアルーム



MUJI×UR Plan05 | Re+005
床面積：64.63㎡

個室が3つあるシェアプラン。

ダイニングを住まいの中心にした、3人でシェアできる住まい。
広いキッチンには3人分の収納が充分にとれそうです。
ルームシェアだけでなく、お子さまのいるファミリーにも
おすすめしたい間取りです。



家の中心にみんなが集まりやすいよう、広めのキッチンとダイニングを配置。
床に座って食事をしながらくつろげます。

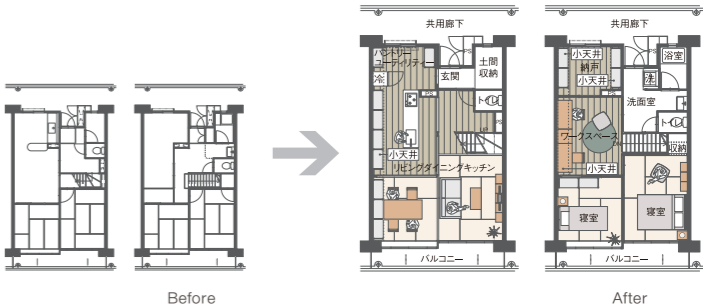
メゾネット



MUJI×UR Plan42 | Re+042
床面積：89.72㎡

空間のつながりを感じるメゾネット。

細かい間仕切りをなくして、上下階のつながりだけでなく
空間全体のつながりが感じられるようにしました。
部屋の中央に位置する階段は、光と風を通してながらも、
玄関とLDKとをゆるやかに仕切っています。



元々壁で囲われた階段だった部分の壁を撤去してスケルトンとし、
手摺を新たに加え、光と風が通り抜ける階段になりました。



階段を上ると正面にワークスペースがあり、
南面の寝室から半透明ふすまを通してやわらかな光が届きます。

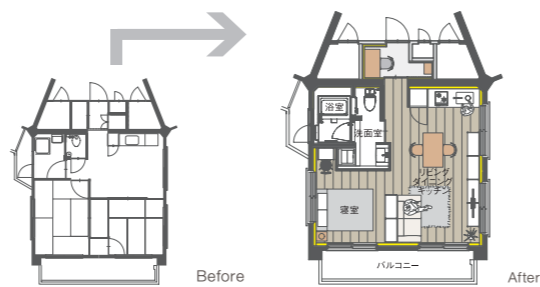
コンパクトライフ



MUJI×UR Plan59 | Re+059
床面積：38.88㎡

温熱環境を改善した一室空間の自由な間取り。

窓が多いことで外気にさらされやすく、寒さが課題だった空間は、一度スケルトンまで解体し、断熱材やインナーサッシを取り付けることで、温熱環境を整えました。一室空間とすることで、家具の配置によって自由に間取りを変化させることができます。



広い玄関土間は、収納としてだけでなくワークスペースとしても利用できます。引戸を閉めると個室になります。



間取りの中心にあるユーティリティスペース。狭い間取りを圧迫しない、コンパクトな空間です。

MUJI×UR Plan+S [Re+S]



暮らしの基本となる収納(Storage)を充実させた住まい。

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトでは「作りこみすぎず、壊しすぎない」ことを大切に、良いものは大切に受け継ぎ、工夫をこらして住む自由度の高い住まいを考えてきました。

その基本の考え方は踏襲しつつ、住まいの基本となる収納(Storage)を充実させた「MUJI×UR Plan+S」が新たに誕生しました。

団地の間取りをあらためて見直してみると、各部屋に押入が充実していることがわかります。

押入は布団が入ることはもちろん、その奥行きを生かして

上手に収納することでキャンプ用品など趣味のモノを収納したり、

中棚を利用してテレワークのワークデスクにするなど、自分なりの暮らしに編集することができます。

そんな現代の暮らしに合った押入をそのまま残しています。

また、木製の長押をリビングや玄関の壁面に加えました。

長押を上手に利用することで、自分なりに壁を収納にしたり飾ったりすることができます。

収納を充実させることで、余計なものを出さないスッキリした暮らしができそうです。



充実した押入収納 趣味のものを収納したり、中棚を利用してワークデスクにするなど、自分なりに編集することができます。



自由に編集できる長押 上手に利用することで、壁を収納にしたり、ものを飾ったりすることができます。



キッチンの吊り戸棚 元々備わっていた吊り戸棚を白く塗装、また水切り棚も磨くことで、違和感なく使用できるようにしました。

暮らしの基本となる収納を 充実させた住まい

MUJI×UR Plan+S | [Re+S](3DK)
床面積：65.57㎡

増築住棟であるユーティリティと居室空間のふすまは
取り外すことで南面の明るい光がダイニングまで差し込みます。
充実した押入で収納を確保できることはもちろん、
新たに取り付けられた長押によって、
壁面収納を自由に編集することができます。



MUJI×UR Plan+S | [Re+S](2DK)

長押をカスタマイズして収納にできる壁

団地のコンクリートの壁にビスを留めたり釘を打ったりすることはDIYでは難しいため、
壁の上下に「木部」を用意しました。この上下の「木部」をきっかけに、
壁に有孔ボードやハンガー、棚板等をお客様自身で取り付けることができます。
玄関や居室等、ライフスタイルに合わせて自由に収納をカスタマイズすることが可能です。



長押に有孔ボードを取り付けることで、
洋服をかけたり時計などの小物を設置できます。



長押があることで小さな棚を設置することができ、
小物を置いたり飾るスペースが生まれます。

MUJI×UR Plan+S | [Re+S](2LDK)

建設当初の設備を活かしたキッチン収納

建設当初から備わっていた吊り戸棚とキッチンの木部を丁寧に修繕し、
ステンレス天板を磨き上げることで収納付きキッチンとして生かしました。



キッチンに元々備わっていた吊り戸棚は、
丁寧に修繕することで違和感なく空間に溶け込みます。



ステンレスの天板は、しっかり磨きをかけることで
新しくなった空間でも問題なく使用できます。

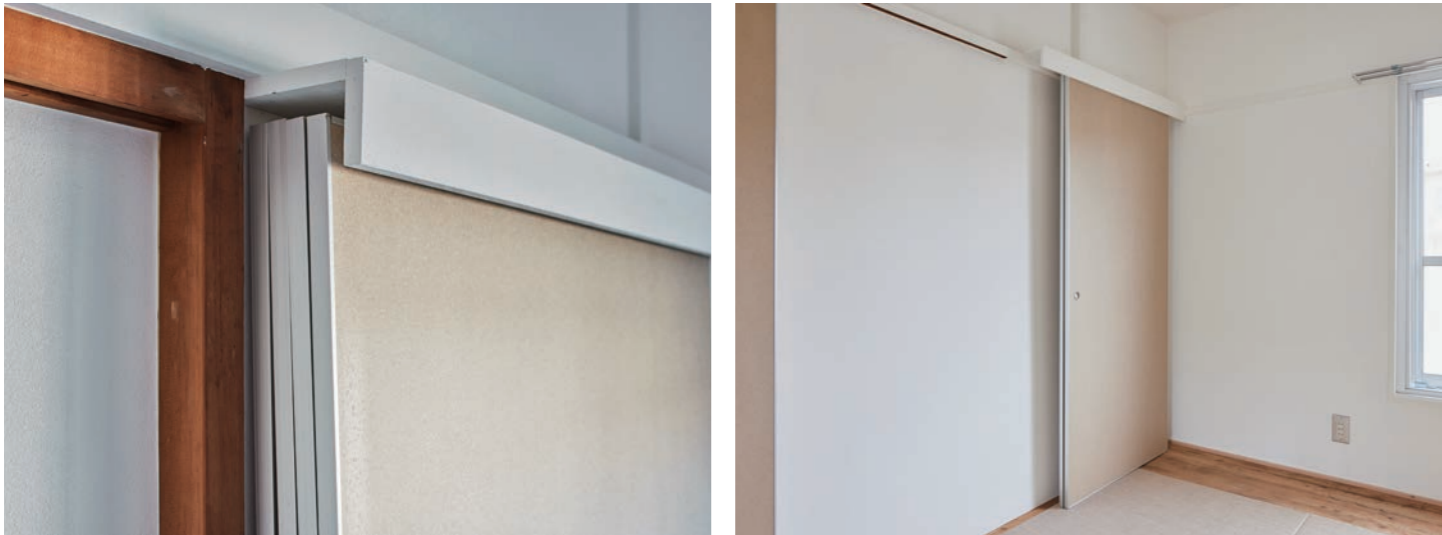
壁まど

壁まどの開口枠によって分断されていたふたつの空間をゆるやかにつなぐことで、風通しのよい明るい印象のお部屋です。また、壁面に追加した長押を活用して有孔ボードや飾り棚を設置するなどご自分の好きなようにアレンジできます。



ふすま収納

団地のお部屋はふすまの取り外しによって可変的な使い方ができますが、そうして外したふすまの置場に困らないように、「ふすま収納」を予めお部屋に備え付けました。スペースを取らずにふすまを収納することができます。



木軸収納

細長く閉塞的だった廊下に、木軸を利用した収納を設けることで、ギャラリースペースとしての新しい用途を与えました。



押入テーブル

押入は物を収納するだけでなく、中棚をワークデスクとして使用することもできます。ふすまを閉じることで仕事のON/OFFを明確に。



わたしがこの部屋に住む理由。

MUJI×UR Plan07 | Re+007

名前：Aさん
場所：東豊中第2団地
家賃：67,700円(月額)
床面積：47.54m²
世帯：ご夫婦
※家賃は取材時点のものです



「暮らし方」が変わる箱でした。

プロダクトデザイナーのAさんと奥様のお住まいは、お二人のセンスで選び抜かれた物がバランスよく配置された心地よい空間。「入居前の計画と入居後の試行錯誤には、時間と労力がかかりましたが、想像していた住まい方に近づくことができました」とAさん。「実際に住んでみて思うのは、この物件はMUJI×URの雰囲気を楽しみたい、という方よりも、これまでの暮らし方を変えてみたい、という方におすすめしたいということ。ここは新しい暮らしをつくれる『箱』のようなものですから」。

早起きしたり。朝食に出かけたり。

実はAさん、ライフスタイルにも変化があったのだとか。「ここに住むようになってから、平日に早起きするようになったり、休日

に公園で朝食をとるようになったり。以前よりも丁寧に暮らしを楽しむようになりました」。入居直後のインタビューで部屋の魅力を「食べること、飲むことに関する遊びができる」と語っていたお二人らしい変化です。

「足りないところ」がいいところ。

この部屋の好きなところを何うと「足りないモノやコトがそのまま残されているところ」と言いきられたAさん。すでにあるものを大切にしつつも、そこに新しさを加えて長く使っていくというところに価値を見いだしていただいているようでした。

MUJI×UR Plan03 | Re+003

名前：Tさん
場所：泉北茶山台二丁目団地
家賃：54,200円(月額)
床面積：46.68m²
世帯：婚約者2人
※家賃は取材時点のものです



「足るを知る」暮らし方に出会いました。

「リビングからの眺めが美しく、朝から夜にかけて移ろう景色を感じながら一日を過ごせるのが本当に幸せです」というTさん。「以前は、最新の設備が整った新しい建物に憧れてきましたが、身の丈にあった予算で住めるリノベーション物件がこんなにも魅力があり、満足できることを知りました」とのこと。今ではシンプルなつくりのこの部屋で、暮らしもシンプルに、必要以上に贅沢をしない「足るを知る」という感覚が心地よいのだそうです。自らの目でものを大切に選び、多くを持たず、丁寧な暮らしをされているTさん。「コンパクトなので自分の生活に合っていると思います。団地に住んだことがない方は不安もあると思いますが、住環境はとても良いし、古さに関してもリノベーションできれいになっています。デザイン性もよくシンプルなつくりなので、すごく住みやすいですよ」と語っていただきました。

MUJI×UR Plan11 | Re+011

名前：Oさん
場所：千代が丘団地
家賃：71,100円(月額)
床面積：63.51m²
世帯：ご夫婦
※家賃は取材時点のものです



つくりながら、考えながら、住む。

二人ともリノベーション物件や古いものの好きだったことから、多くのリノベ物件を内見したというOさん夫妻。団地の無骨な雰囲気は残しながらもすっきりとリノベーションされている雰囲気が理想のイメージに近く、即決されたそう。「とっても心地よいです。今まではとりに誰が住んでいるかもわからなかったのですが、団地の敷地内で会う人とは自然と挨拶するようになりましたし、安心して暮らせそうです」とのこと。特に気に入っているのは、リビングとダイニングが分かれているところ。「食事と、くつろぎ。機能によって場所が変わると、気持ちの切り替えができるので良い」のだそうです。もの持ちの二人。収納が少なく大変な面もあるそうですが、「暮らしながら、必要な場所に棚を置いたり収納を考えたりと、住まいに必要なアイテムを少しずつ足していく、そのプロセス自体が楽しいんです」とのことでした。

10年目の住まい Wさんの家を再び訪問。

MUJI×UR Plan02 | Re+002

名前：Wさん
場所：リバーサイドしろきた
床面積：60.62m²



「住み続けているのは、かなり、気に入っているからです」

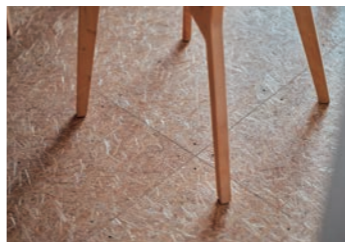
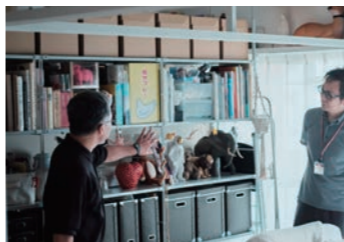
柔らかな日差しが入ってくるダイニングの椅子に座って、Wさんはそう語ります。Wさんがこの住まいに暮らしだして、ちょうど10年が経ちました。10年の節目というタイミングで、当時の計者であるMUJI HOUSEの豊田がWさんのお宅を訪問させていただきました。

リビングにソファ、ダイニングにテーブルと椅子を配置。鴨居の向こう側の部屋にスチールシェルフを2列に並べて、収納スペースとして活用しています。このレイアウトは、8年前に取材させていただいた際とほぼ同じです。



経年変化しない、心地よさ。

「台所道具を置く場所を変えたり、ベッドを買い替えたりといった『変化』はもちろんありました。でも、レイアウトの変更はほとんどないかもしれません。もともと、モデルルームのレイアウトを踏襲したのですが、これが過ごしやすいんですね。だから、余分なものを持たないようにするなどして、住みはじめた際の『心地よさ』を維持することを心がけました」リビングやダイニングなどの床に敷かれている「麦わらパネル」は当時「MUJI×UR」のリノベーションで使われていた素材。寝室には現在も使われている「麻畳」が敷かれています。それらは、経年変化によって、落ち着いた色合いになっています。一方で、白く塗られた壁や天井はきれいなまま。自身の生活感が反映されつつも、清潔感がある。



そんなバランスの取れた居住空間を維持するためには、相当な努力が必要なのは。そんな質問に対して、Wさんは笑顔で首を横に振ります。「モップで鴨居などのほこりを落として、掃除機をかける。基本的には、週に一回掃除をするだけですわね。」

最近リモートワークをすることも多くなり、自宅で過ごす時間が増えましたが、ストレスは感じないそう。「ソファなどでリラックスする時間を持つようにしています」そう話すWさんの視線の先にある窓からは大阪の市街地や生駒山が一望でき、眼下には春に桜が咲くという公園が広がっています。休日は団地内のカフェで過ごすこともあるのだそうです。



あるものを活かす楽しみを。

「MUJI×UR」が新たに取り組む「団地まるごとリノベーション」にも好印象を持っているそうです。「共用部分もリノベーションし、地域コミュニティの形成にも積極的に関わることで、様々な世代の人たちにとって、より暮らしやすく過ごしやすい場所になるはず。団地自体がいい意味で、今よりも『盛り上がる』ように感じます」

今の住まいでの10年間を振り返っていただいたWさん。最後に「MUJI×UR」が手がける住まいに入居を考えている方々へのメッセージをいただきました。

「基本的に古い団地の住戸をリノベーションしているから、不便なところもあるかもしれません。でも、決して住みにくいわけではなく。例えば、キッチンのタイルや、バスルームのドアなどといったレトロな部分を残しつつ、シンプルで飽きのこないデザインで統一されている。そんな『MUJI×UR』の住まいが、格好いいな、素敵だな、と感じられる方だったら、その良さをより引き立てるような工夫自体を楽しみながら、長く暮らしていけるんじゃないかな、と思います。」

団地まるごとリノベーション



団地とまちづくり

2021年3月に発表をした「MUJI×UR団地まるごとリノベーション」。千葉県千葉市にある大規模団地、花見川団地で第一弾をスタートしました。住戸だけでなく団地外観、屋外広場、商店街区といった共用部分にもリノベーションの対象を広げ、地域コミュニティの形成にも連携して取り組むことで、団地を拠点とした地域の生活圏を活性化していきます。こうした取り組みは今後、全国各地の団地で行っていく予定です。



多世代が安心して住める、MUJI×URリノベーション住戸（花見川団地）

今回2022年5月に、千葉市、UR都市機構、良品計画、MUJI HOUSEの連携協力により、花見川団地まるごとリノベーションをさらに進めるため、4者の連携協力による花見川団地を拠点とした地域生活圏の活性化に関する協定を締結しました。内容は多岐にわたりますが、たとえば、このような内容を考えています。

1 多様な世代が安心して住み続けられる
環境整備に関すること



自動運転バスGACHA 多世代が安心して住めるように、MUJI×URリノベーション住戸の供給はもちろん、若者向け家賃等支援制度の活用、自動運転バス「GACHA」実証実験の実施など団地内移動支援を行います。

2 花見川団地商店街の活性化に関すること



買い物やコミュニティづくりのために、花見川団地商店街の活性化が大事になりそうです。商店街のリノベーション、サイクリングコースと商店街の連携、ポップアップストアの開設、コミュニティアートならびにアップサイクル推進拠点の整備・運営、ワークショップも予定しています。

3 地域で活躍する人材の発掘や
活動支援に関すること



商店街イベントに「キッチンカー」を誘致 地域で活躍する人材の発掘や活動支援を行うために、近隣農産物の生産者による定期的なプチマルシェの実施、住民の小商い創業支援を考えています。

4 地域資源の活用に関すること



地域資源である花見川を活用した「カヤック体験」 地域資源の活用をするために、花見川・花鳥公園のアウトドアイベントと団地商店街イベントの連携実施、花見川河川敷の環境整備による親水空間の創出も検討しています。

5 大学連携に関すること

6 情報発信に関すること など

MUJI×UR

団地リノベーションプロジェクト

愛知県

大幸東団地 名古屋市
千代が丘団地 名古屋市
水草団地 名古屋市
アーバニア千代田 名古屋市
桜田団地 名古屋市
豊成団地 名古屋市
相生山団地 名古屋市
高蔵寺ニュータウン 春日井市
中央台団地 名古屋市
尾上団地 名古屋市

京都府

桃山南団地 京都市
保津川団地 亀岡市

兵庫県

鈴蘭台第1団地 神戸市
落合団地 神戸市
新多聞団地 神戸市
多聞台団地 神戸市
明石舞子団地 神戸市

福岡県

四箇田団地 福岡市
アーベインネス貝塚 福岡市
下大利団地 大野城市
金田一丁目団地 北九州市
もりつね団地 北九州市
本城西団地 北九州市
志徳団地 北九州市
金鶏団地 北九州市
到津南団地 北九州市

大阪府

リバーサイドしろきた団地 都島区
千里青山台団地 吹田市
東豊中第2団地 豊中市
新千里北町団地 豊中市
新千里西町団地 豊中市
新千里東町団地 豊中市
泉北茶山台二丁団地 堺市
アルビス五月ヶ丘 池田市
香里団地 枚方市
金剛団地 富田林市
白鷺団地 堺市
泉北竹城台二丁団地 堺市

奈良県

中登美第三団地 奈良市
平城第二団地 奈良市

埼玉県

武里団地 春日部市
若葉台団地 鶴ヶ島市
北本団地 北本市
新座団地 新座市
せんげん台 越谷市

東京都

品川八潮パークタウン 品川区
潮路南第一ハイツ 練馬区
光が丘パークタウン 板橋区
ゆりの木通り北 多摩市
高島平団地 多摩市・日野市
多摩ニュータウン永山 国立市
百草団地 多摩市
国立富士見台団地 国立市
多摩ニュータウン 八王子市
ベルコリース南大沢 町田市
町田山崎団地 町田市

千葉県

花見川団地 千葉市
牧の原団地 松戸市
芝山団地 船橋市
真砂第一団地 千葉市
真砂第二団地 千葉市
高洲第二団地 千葉市
ハイタウン塩浜 市川市
小金原団地 松戸市

神奈川県

港南台かもめ団地 横浜市

※本冊子に掲載されている写真および図面は、家具・什器・小物等を配置したモデルルームのもので、「組合せキッチン（Re+001、Re+003、Re+004、Re+006、Re+007、Re+008、Re+009、Re+013、Re+015、Re+021、Re+022、Re+025、Re+036、Re+048、Re+051）」のキッチンテーブル以外の家具・什器・小物等は標準の仕様には含まれていません。団地によって一部写真および図面と異なる部分がございます。本プロジェクトに関する詳細はURLにてご確認ください。

・UR都市機構「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」<https://www.ur-net.go.jp/chintai/muji/>

・無印良品の家「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」<http://www.muji.net/ie/mujiur/>

発行元：独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 住宅経営部 〒163-1382 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号（新宿アイランドタワー内）

中部支社 住宅経営部 〒460-8484 愛知県名古屋市中区錦三丁目5番27号（錦中央ビル1階）

西日本支社 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目2番22号（ハービスエント オフィスタワー内）

九州支社 住宅経営部 〒810-8610 福岡県福岡市中央区長浜二丁目2番4号

発行：2023年2月